

学校だより

井波っ子

令和6年3月22日
南砺市立井波小学校
3月号 第354号

井波小学校HPアドレス
<https://inami-e.nanto.ed.jp/>

(題字は県書き初め大会出場児童)

春がきました

校長 中町 寿子

「隣であいさつ運動をしてもいいですか」3月のある朝、5年生の子供たちが声を掛けてくれました。この季節になると、私はいつもそわそわします。やり残したことが気になって、落ち着かないのです。そんな私ですが、この朝はとても励まされたような気持ちになり、「もちろんです。うれしいです。」と答えました。子供たちは、もう次の学年に向けての期待を高めてました。「自分が最高学年になる、そして、自分たちでよりよい学校にしていきたい」という思いが伝わってきて、子供たちの心の成長と意欲にまぶしさを感じました。



<あいさつ運動をする5年生>

また、「大谷選手のグローブを使ってもいいですか」と言ってきた子供たちがいることを知りました。2月に大谷選手からグローブをいただき児童玄関に展示したままでしたが、使いたいという子供たちからの要望を聞いて、待ってましたとばかりにうれしい気持ちになりました。子供たちが使う際のルールについて心配する声も聞かれましたが、全て先回りして大人がルールを決めるのではなく、(もちろん必要な場合もありますが)子供たちで考えながらつくっていくこともとても大切だと思います。問題が見えてきたとき、どのように子供たち自身で解決していくのかを見守ることも大切だと思っています。やりたいという気持ちを応援したいと思います。



<大谷選手のグローブ>

さて、3月は、どの学年にとってもまとめの時期ですが、私たち教職員の役割として、成長した姿を子供自身が実感できるようにするということがあります。卒業証書授与式は、1年間の成長した姿を表現する場です。ここでは、旅立つ子供、祝う子供、全ての子供たちが、自分の成長した姿を保護者地域の皆さんに見ていただく機会になります。そこで得られる一体感は、また次の学年に進むための自信になるのです。

また、春がきました。素敵な子供たちの姿に励まされた1年は、あっという間でした。今年度、保護者の皆様には、直接お話する機会をいただいたり、貴重なご意見を寄せていただいたりしました。もっともっと保護者の方々となつながつて、子供たちのことを考え、共に歩んでいきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

どの子も自分の力で歩いていくことができるように

特別支援教育コーディネーター 曲師 ひとみ

子供たちは、得意なこと、苦手なことが一人一人違います。どんな活動にも意欲的に取り組む子供もいる一方、前向きに学習に取り組むことが苦手な子供もいます。そんな子供たちをよく見ると、やる気がなかったり怠けていたりするわけではなく、前向きになれない隠れた困難さがあるように感じます。理解に時間がかかり、分からないまま次の学習に進んでしまう、じっと座っていることが苦手、自分の気持ちを抑えられずイライラしやすい、話すことはできるのに書くことが極端に苦手など様々です。そんな子供たちに、困難さに合わせた配慮(合理的配慮)をすることで「できた」「楽しい」「もうちょっとがんばってみよう」という思いをもつことができるように支援をしています。

ただ、困難さがどこにあるのかは簡単には見えません。そのため、困難さを抱えている子供について複数の教員、支援員で情報を共有し、どのような支援がよいか考えています。また、子供の家庭での様子も含めて保護者の方と情報を共有し、支援について一緒に考えるようにしています。さらに、市の特別支援コーディネーターに学校に来ていただき、専門的な目で子供の様子を実際に見ていただいて、支援の相談に乗っていただいています。保護者の方を交えた支援会議に入らせていただくこともあります。

4月から新しい担任や仲間との学校生活がスタートします。心機一転がんばろうという意欲とわくわくとした期待感に満ちあふれるとともに、緊張感や不安感もあると思います。子供たちがいろいろな活動に主体的に取り組み、自分の力でしっかりと歩いていき、将来の自立につながるように、今後も一人一人に合った適切な支援をしていきたいと思っています。